

人材養成および教育研究上の目的

英語学英米文学専攻においては、英語学・英米文学・英語教育学の各分野においてカリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では、学部での習熟度を踏まえ、講義と演習を通して研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、もって社会進出に必要とされる専門知識のある国際人を育成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程で培った専門的能力をより磨き上げ、体系的な研究業績の達成はもとより、国際社会に貢献し得る高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。

| 三つの方針（三つのポリシー） | | |
|---|--|---|
| 学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー） | 教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー） | 学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー） |
| ＜博士課程前期＞ | | |
| <p>人文科学研究科英語学英米文学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（文学）の学位を授与する。</p> | | |
| <p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語に関する各学問分野の知識を修得し、様々な研究方法を用いて口頭発表や論文にまとめることができる。（DP1） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら発見した研究課題にもとづいて作成した修士論文と口頭試問に合格している。（DP1） | <p>【教育課程の編成】</p> <p>2年通年の論文指導科目「演習」と各学問分野を幅広く学ぶことができる「特殊講義」と「特別講義」により、専門とする学問分野とその関連分野の知識を深めることができるカリキュラムを提供している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>いずれも少人数で行われる「演習」「特殊講義」「特別講義」における議論、口頭発表、レポートや論文作成を通じて、各分野の知識を深めていく。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>各授業で与えられた課題の到達度、ならびに、提出された修士論文と口頭試問によって評価する。（DP1）</p> | <p>【求める学生像】</p> <p>英語学、英語教育学、および英米文学の研究をとおして身につけた知識や技能を、高度専門職業人、教育職員、研究者として、社会・教育の現場で活かすことを目指す学生を広く受け入れる。</p> |
| <p>技能</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学問的問題を解決することができる。（DP2） 先行研究をふまえて自らの論を展開できる。（DP3） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特殊講義において、論理的かつ効果的に口頭発表やレポートをまとめることができる。（DP2） 修士論文を完成させ、口頭試問にも合格している。（DP3） | <p>【教育課程の編成】</p> <p>「演習」「特殊講義」「特別講義」を開講し、それらを指導教員の指導のもと効果的に組み合わせるシステムである。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>「演習」「特殊講義」「特別講義」における議論、口頭発表、レポートや論文作成を通じて、学術的な議論や発表に必要な技術を身につけていく。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>授業時の発言や発表、提出された課題、ならびに、提出された修士論文と口頭試問によって評価する。（DP2・DP3）</p> | <p>【入学者選抜の在り方】</p> <p>語学と専門科目の筆記試験および面接試験により、大学院で学ぶために必要な基本的な知識と態度、志向性を有しているか判断する。</p> |
| <p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。（DP4） 自ら研究課題を発見し、その問題を解決する姿勢と意欲を持っている。（DP5） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特殊講義や特別講義において、対象となる課題について自ら考え、研究倫理を踏まえた上で積極的に発言することができる。（DP4・DP5） 修士論文を完成させ、口頭試問にも合格している。（DP4・DP5） | <p>【教育課程の編成】</p> <p>「演習」「特殊講義」「特別講義」を開講し、それらを指導教員の指導のもと効果的に組み合わせるシステムである。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>「演習」「特殊講義」「特別講義」における議論、口頭発表、レポートや論文作成を通じて、自ら学問的問いを持ち、研究倫理を踏まえた上でそれを解決していく姿勢と意欲を高めていく。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>授業時の発言や発表、課題や修士論文等の取り組み方により評価する。（DP4・DP5）</p> | |
| ＜博士課程後期＞ | | |
| <p>人文科学研究科英語学英米文学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（文学）の学位を授与する。</p> | | |
| <p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】</p> <p>自らが専門とする学問分野の知識と研究能力を高め、それらを活かして博士論文にまとめることができる。（DP1）</p> <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特別研究」「特論」において自発的に学び、自らの考えを論理的、かつ実証的な口頭発表や論文にまとめることができる。（DP1） 博士論文と口頭試問に合格している。（DP1） | <p>【教育課程の編成】</p> <p>3年通年の論文指導科目「特別研究」と各学問分野について広く深く学ぶ「特論」を開講し、知識を深めながら、段階的に博士論文の作成を行うことができるようなカリキュラムを編成している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>いずれも少人数で行われる「特別研究」「特論」における議論、口頭発表、論文作成を通じて、専門分野の知識を深めていく。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>授業時の発言や発表、ならびに、提出された博士論文と口頭試問によって評価する。（DP1）</p> | <p>【求める学生像】</p> <p>博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、蓄積してきた研究成果をいっそうひろげ深めようという向上心・探究心を持つ者を受け入れる。</p> |
| <p>技能</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野における先行研究を踏まえたうえで、論理的かつ実証的に考察・分析を行い、自らの研究課題をより深く追及し、研究者として自立した活動ができる。（DP2） 英語を用い、独自の見解を論文で明示することができる。（DP3） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士論文と口頭試問に合格している。（DP2・DP3） 2年次に日本英文学会の九州支部大会などで口頭発表を行っている。（DP2） | <p>【教育課程の編成】</p> <p>論文指導科目「特別研究」と各学問分野について広く深く学ぶ「特論」を開講し、学問的技術を高めることができるようなカリキュラムを編成している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>「特別研究」「特論」における議論、口頭発表、論文作成を通じて、論理的かつ実証的に研究を行う技術を身につける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>授業時の発言や発表、ならびに、提出された博士論文と口頭試問によって評価する。（DP2・DP3）</p> | <p>【入学者選抜の在り方】</p> <p>修士論文、語学と専門科目の筆記試験と、それらを踏まえて行う面接試験により、博士課程後期において専門分野の知識と研究能力を高めることができる資質を備えているか判断する。</p> |
| <p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理に関する規範意識を身につけている。（DP4） 専門分野において後進を指導し、育成する資質や指導力を身につけている。（DP5） <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間にわたる論文指導科目「特別研究」において、研究倫理を踏まえた上で、論理的に考察、発言し、実証的に論文をまとめることができる。（DP4・DP5） | <p>【教育課程の編成】</p> <p>論文指導科目「特別研究」と各学問分野について広く深く学ぶ「特論」を開講し、自立した研究者として、研究倫理を踏まえて後進を指導・育成する資質や指導力を高めることができるカリキュラムを編成している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>「特別研究」「特論」における議論、口頭発表、論文作成を通じて、また、専攻内の研究会活動の運営に関わることで経験を通じて、目標とする能力を高めていく。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>授業時の発言や発表、博士論文等の取り組み方によって評価する。（DP4・DP5）</p> | |